

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609188		
法人名	有限会社 峰の山		
事業所名	グループホーム みずこしの里		
所在地	秋田県大仙市土川字上雨堤135-1		
自己評価作成日	平成28年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみずこしの里は、福祉・介護を通じ地域の皆様の健康と豊かな生活づくりに貢献し、愛情あふれる会社を目指します。継続した介護サービスを提供するとともに、介護職員の技術の向上と知識の習得に努めます。利用者が豊かな自然のもと、畑作り・花作りや手芸・家事の分担に取り組み、一人ひとりが穏やかに自分らしく生き、介護職員がそれを支えております。又、太陽光発電を設置し、環境にやさしい施設作りにも努めています。NPO法人環境あきた県民フォーラムによるあきた環境優良認定事業所でもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症カフェや認知症型共用デイ等、地域発展の為に新しい事にどんどんチャレンジしている事業所である。最近、現場に10年以上いた職員が管理者となり、現場の事も理解できていて、風通しの良い職場となっているため、これからが楽しみな施設である。資格取得に対しても、試験を受ける機会や休める体制等を確保でき、手当も支給されるなど配慮されており、各自向上心を持って働けるような職場環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	専門技術・知識を高める為、常に職員の質の向上に努め、全員が理念を共有できるよう月1回の全体会議を実施している。また、個別のカンファレンスの際等にも話し合いを設けるようにしている。	理念は入社時にきちんと説明しており、入社間もない職員も理解し、自分の言葉で説明する事が出来ている。また、月1回の会議や、日々のカンファレンスにおいても、利用者の状況について理念を基に話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日中の祭典や、ふるさと祭りなどに入居者・職員共々参加させて頂き、地域住民様と交流させて頂いている。	町内会長とのつながりも強く、地域での行事にも積極的に参加しており、地域との接点を持つ努力をしている。施設内にも、ボランティアの方々がたくさん来訪しており、利用者の笑顔が印象的な写真が施設内のあちこちに飾られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	花壇の花植えや、ボランティア受け入れ時等、ホーム内行事の実施の際には、声かけにて参加・見学してもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及び家族様・介護保険事務所・自治会長・民生委員等の方々から参加して頂き、地域との交流を図るなど、サービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。運営推進会議での出席者からの意見を真摯に受け止め、サービスの向上に向け取り組んでいる。会議記録を職員全員に回覧して内容を把握して頂いている。	運営推進会議では、実地指導の反省点や、ボランティア、バスハイキング等行事活動の報告の他、家族会を開催したい等、活発な意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に出向いたり、電話連絡をしたりして情報収集や協力関係作りに取り組んでいる。	避難訓練や花植え等の報告を行ったりと、特別な出来事以外も折に触れ伝えている。また、現在満床となっているが、入居希望利用者について情報収集を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で勉強会を実施、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事例は無い。年に1回行われている、多職種連携会議に参加し学んでいる。また、毎年、内部研修を行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをいつでも見れるようにしている。全体会議でも話し合いの場を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各利用者様の状況を把握し、必要な場合は活用できるように支援している。開設者については研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の来訪時や郵送にて利用者様ご家族への説明同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時、意見・要望をお伺いしている。また意見箱の設置もしている。	ご家族の来所時の他、3か月に1回のケアプラン作成時には電話にて意見を伺うよう配慮している。また、毎月のお手紙では、各担当職員が、1か月の様子をきちんと伝えており、家族が意見を言いやすい環境を作り出そうと努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議で職員の発言・提案する時間を設け、意見交換している。	全体会議以外でも、どのように服薬を完璧に行うかについて、職員同士意見を出し合い、実行する努力をしたり、手すりの設置についての意見を出し合ったりと、意見交換が行われ実践している。また、勤務交換等についても職員同士相談し調整するなど、働きやすい環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月～金曜日まで午前8時～午後5時までほぼ勤務し、管理者や職員個々に対し資格取得及び研修受講において給料水準の引き上げを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、研修報告を行いケアの向上・共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者様との交流を行い、相互のホーム内の活動を検討する機会を持ち、向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接をし、本人の不安や要望を聞き、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族の要望等を聞いて、良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の会話に耳を傾け、共に暮らす者同士の関係づくりに努力している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、その月にあった行事や様子などをお便りで近況報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔話や仕事の話、民謡の話などに耳を傾け、馴染みの人などとの関係を支援するように努めている。	以前住んでいた所の近所の方や、友人が面会に来てくれている。少し離れた地域からの利用者は、なかなか出かけることが出来ない為、電話での連絡を取り持つ等、つながりが継続できるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように、職員が間を取り持ち、一緒に過ごせるように配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援・要望に対し、常に相談対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人のペースに合わせ、食事や入浴・体操・散歩など意向に沿った支援を行い、本人のストレスにならないような援助に心掛けている。	利用者個々の思いの傾聴・受容を心掛けている。日々、一人ひとりとコミュニケーションを図り、反対や否定の言葉は使わず、本人の納得できる生活を送れるよう努力している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報をご家族様より収集し、今後のサービスの向上及び、一人ひとりが穏やかな生活を送れるよう、把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活記録に一日の行動パターンを記録し現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを実施、またご家族様の面会時にはご意向を伺い、それに基づいたケアプランの作成に努めている。	担当職員が日々の生活の中で利用者の意向を把握し、管理者が電話にて家族の意向を伺っている。昼休みを利用し、職員全員で利用者についての気付きを話し合い、介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りにて職員間の情報を共有し、モニタリングに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇の花植えの際には利用者様にも協力頂いている。ボランティアの受け入れやふるさと祭りの見学・納涼祭等、楽しんで頂けるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院への受診、かかりつけ歯科受付を定期的・本人の希望時・体調不良時に援助している。	統合失調症の方が多く、協力医療機関へ定期受診している。定期受診以外の緊急時受診等は、もともとのかかりつけ医へ受診援助しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの協力を得て、週1回看護師によるバイタルチェック、利用者様の体調や変化などに対する相談等、適切な支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、早期に退院できるよう、医療連携室との情報交換を行い、面会により様子の確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向・かかりつけ医院からの意見を確認しつつ、ホーム側の対応について職員も意見交換し職員全員が同一方針の共有に努めている。	今まで看取りの事例は無いが、看取りまでして本当の介護という方針で支援している。職員間でも、日々、どのように対応するか、どのようにすれば安心して最期を迎えられるか、どのような言葉かけをしながら看取れば良いか等、対応を検討している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防分署の協力を得て実施訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際には、職員一人ひとりの実践力を身につけ、また地域住民の方にも避難の手助けの訓練・消火器を用いた消火訓練に参加頂いている。	避難訓練には地域の方も参加しており、実際の災害時も、すぐに駆け付けてくれる体制ができている。また、アルソックとの契約により、災害時はすぐに駆け付けてくれることになっており、安心して生活できる環境が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保ができるよう徹底している。利用者様の尊厳を重視し、丁寧な言葉遣いと、プライバシーに配慮した声かけをしている。個人記録ファイルは事務所保管し他の利用者様の目に触れないよう配慮している。	オムツ交換時や入浴時は戸やカーテンを閉めるなど、日々の細かい介助方法も意識して取り組んでいる。また、利用者に対して尊厳を持って対応し、言葉使い等、職員同士注意し合っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聴き、対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間を制限せず、本人のペースで過ごしてもらえるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は支援し、外出時はご本人と外出着を選び外出できるよう支援している。 化粧品等の購入の要望はご家族と相談しながら対応している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、食後の片づけなど、職員と共にご本人の出来る範囲内で行って頂けるよう依頼している。	毎日の茶碗・皿・おぼん拭きは職員と共に利用者が行っている。畑で収穫したナスやキュウリ等を使用し、季節感を感じる食事を提供している。また、外出することによって、季節感を感じ、食欲が沸くよう配慮している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日記録し状況を把握している。食事は個々に合わせ、必要な場合は粗刻みするなど、状態に合った支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声かけや見守りにて行い、就寝時には義歯洗浄剤を使い清潔を保てるよう支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、誘導・声かけにて排泄を促し、自立に向けた支援をおこなっている。失禁時には他利用者様に気付かれないよう配慮し援助している。	オムツ使用は最終手段と考えており、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ等、本人に合わせ検討している。また、チェック表を使用しながら、失禁が減るような支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳、昼はヨーグルト、毎食野菜を取り入れるよう努めている。また、出来る範囲内でのラジオ体操(1日2回)にて便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午前・午後、入浴・シャワー浴、等の本人の希望に沿えるような体制をとっている。	入浴拒否する利用者にも、声掛けを適切に行い、きちんと入浴できている。また、なるべく利用者自身で洗身してもらっており、できない所や届かない所のみ援助しており、一人ひとり、ゆっくりとしたペースで入浴できている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重し、日中は居室・リビング・和室等本人の望む場所で、夜間は居室にて気持ちよく休息できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・目薬は職員が管理し、副作用や用法・用量を確認、医療関係者と相談しながら支援・確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度・後片付け、掃除等、それぞれの出来る範囲で行って頂けるよう支援している。嗜好品については、個々に買って頂いたり、職員が代行したりして支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイキング・ドライブ等を定期的に行う他、天候の良い日はホーム近くの散歩・日光浴など本人の希望により行っている。可能な方は近隣の行事に参加するなど地域の方との交流も図っている。	近隣での行事がある時は、町内会長からお誘いしてもらえる良い関係ができており、積極的に外出できる環境になっている。外出が難しい利用者にも楽しんでもらえるよう、祭りの際は施設の外で神輿をあげてもらったりと、みんなが外に出て楽しめる環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バスハイキング時にお金を所持して頂き、使ってもら。また希望時は施設前の自動販売機で好きなジュースを購入していただくなどの支援をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、電話や手紙のやりとりをしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や掘りごたつのある和室、多目的ホール等、広い共有空間となっております。また、畑や花壇にて季節感を味わって頂けるよう工夫している。	調査時には、あちこちにクリスマスの飾り付けが行われており、季節感満載の共用空間だった。また、みんなで毎日少しずつ、何か月もかけて大きな貼り絵を完成させ、文化祭に出品した大作や、ボランティアの方の慰問や外出行事等、利用者の素敵な笑顔の写真がたくさん飾られていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり、和室やリビングのソファ、廊下のテーブル席等、色々な場所で過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室へは馴染みのものを自由にお持ち込み頂き、本人が居心地よく落ち着いて過ごせるようにしている。	テレビを置かれている方、仏壇を置き毎日水替えを行っている利用者等、個々の個性が出た部屋となっていた。ベッドは施設のものだが、布団を希望する方はベッドを片付け、布団で寝たりと、本人が心地良く過ごせるような工夫がされている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、廊下・トイレには手すりを設置し、安全に行き来できるよう工夫している。		